

第1号議案 2012（平成24）年度 事業報告

1. 公益目的事業

1.1 自然保護事業

1.1.1 里山保全

- (1) 荒れた里山である針葉樹人工林の間伐や竹が侵入・拡大した森林の竹の除去作業をはじめ、地域における里山保全活動を以下の通り行った。
太子町葉室里山クラブ／太子人工林間伐隊／妙見里山倶楽部／野崎・飯盛の山と緑を保全する会／紫金山みどりの会／穂谷里山保全チーム
- (2) 能勢・長谷の私有林で、里山モデル林づくりの取り組みを継続した。
- (3) このうち太子人工林間伐隊では、NICE（日本国際ワークキャンプセンター）が募集した国内外の学生などのボランティアを、提携団体である富田林の自然を守る会と協働して受け入れ、里山保全作業を通じて国際交流を図った。
- (4) 3月に里山委員会主催で「第3回生駒・金剛山系里山サミット」を富田林市奥の谷で開催した。参加は8グループ27名だった。

1.1.2 里地里山・自然系公園の保全活動と支援

- (1) 和泉市信太山の自然保護活動団体「信太山に里山自然公園を求める連絡会」に継続して参画し、シンポジウムの開催などで支援した。和泉市は、学識経験者・市民による諮問機関「和泉市信太山丘陵市有地保全・活用検討委員会」を設置し、2013年度にワークショップ型の協議の場を設けるなどとした答申書を提出した。
- (2) 堺市鉢ヶ峯の里山林における土砂処分地建設に反対している地元団体を支援した。

1.1.3 自然生態系の経常的保全運動

淀川水系の他のダム問題については引き続き、「脱ダムネット関西」などにより国土交通省・近畿地方整備局へ意見発言を行い、反対・提言等の運動に取り組んだ。
第12回脱ダムネット関西フォーラムを1月18日に開催した（ダム問題研究会）。

1.1.4 共生の森づくり

堺市臨海部の堺第7-3区産業廃棄物処分場で大阪府が実施している植樹などの事業「共生の森づくり活動協働事業」について、2008年度より継続して、保全協会が加盟している（特活）大阪府民環境会議の事業受託に協力し、植樹や苗づくり、植栽木の生長調査などに取り組んだ。対外自然協力隊メンバーの参加などにより作業を完遂することができ、協会の総合力を活かしたケースといえる。

1.1.5 ビオトープ（野生生物の生息空間）づくり

都市圏における自然ふれあい活動、自然環境の回復創出を進めるため、三菱UFJ環境財団の助成により、小学校と保育園で水辺のビオトープづくりを実施した。また、小学校においてその活用による自然環境学習に取り組んだ。

1.2 調査研究事業

1.2.1 野生シカ調査

今年度は第3期シカ保護管理計画の初年度となり、この中で府における野生シカ調査が継続された。本年度は、この調査の「糞粒調査」のうち、保全協会の受託分は半減し、「シカによる森林植生衰退状況調査」の実施はなかった。

1.2.2 高槻本山寺周辺域の森林保全

3月30日に第3回報告集会を31名の参加で行った。集会準備の中で、大阪府、高槻市、大阪府猟友会、日本山岳会などとコンタクトし、対策などについて情報交換した。次のステップ（当面は、植生保護柵などで被害を防ぎながらシカの個体数管理へと向かう）への展望が開けた。

1.2.3 堺南部丘陵（東西道路）植生調査

鉢ヶ峯地域の「東西道路」延伸事業が本年度も継続され、鉢ヶ峯の自然を守る会、大阪府、堺市、保全協会で構成した「堺南部の里山に配慮した農道づくり検討会」に元理事2名が引き続き出席。道路法面緑化調査（大阪府委託事業）の経過を報告し、緑化の方針や濁水処理、カスミサンショウウオ保護などについて対策等を提案した。

1.2.4 万博記念公園野生生物生息調査

万博記念公園の自然環境の現況を把握するとともに都市緑地の自然をより豊かにしていくため、（独）日本万国博覧会記念機構より引き続き調査業務を受託し、園内のほ乳類や鳥類、昆虫類など生物相の調査を行い、また生物の見分け方などを学ぶ人材養成講座なども実施した。

1.2.5 環境省モニタリングサイト1000里地調査

(1) 2005年より枚方市・穂谷で実施されているモニタリングサイト1000里地調査では、環境省より本事業を受託している（財）日本自然保護協会の依頼を受け、穂谷調査の調査員・調査分野間の連絡調整、会合の開催、地元との交流など、地域コーディネーター業務に取り組んでおり、これを継続実施した。

(2) 下記のモニ1000準備サイトで引き続き調査を実施した。

鉢ヶ峯：堺自然観察会（植物相）／紫金山公園：吹田自然観察会（植物相・鳥類・チョウ類）

保全協会以外のサイトは次の通り＝千里緑地第2区：島熊山の雑木林を守る会（植物相）／富田林奥の谷：富田林の自然を守る会（植物相、チョウ類）／石川河川公園自然ゾーン：石川自然クラブ（カヤネズミ）

1.2.6 特定自然保護活動推進資金事業

協会内のグループ・会員の自然保護活動を進めるため設けた特定自然保護活動推進資金制度を継続し、申請のあった事業3件を審査し以下の事業を採択し実施した（1次）。

① 太子人工林間伐地の地図作製

② 里山指標生物調査マニュアルの作成

③ 烏帽子形公園の自然の保全のための自然観察ガイド作成

7月には2次募集を行い、申請のあった事業3件を審査し以下の2件を採択し実施した。

④ シンポジウム「信太山丘陵（市有地）の保全・活用計画」の開催

⑤信太山の草原の維持管理についての現地研究会

1.2.7 里山一斉調査

大阪府内などの里山に定めたルートを歩き、哺乳類のフィールドサイン、植物、野鳥などを観察調査するもので、第30回となり、府内13コースと府外1コースで実施。延べ178名が参加、7月に報告書を作成、配布し、「都市と自然」に概略を報告した。

1.2.8 その他の自然保護・調査研究

- (1) 水生生物調査研究会の活動を継続した。
- (2) 「都市公園自然調査研究会」は錦織公園で生物多様性保全の観点から公園のあり方について調査・研究した。
- (3) 里山指標生物調査に活用する「里山指標生物調査マニュアル」の作成に取り組んだ。
- (4) 会員が活動する地域における各種調査や活動の記録、自然環境保全に関する知見発表の場を提供するため、「ネイチャーおおさか・スタディファイル NO.5」CD-Rの発刊作業を進めた。
- (5) 受託事業としては、枚方市自然環境調査（枚方ふるさといきもの調査）事業を前年度より継続して実施し報告書を提出した。
- (6) 「草地生態系研究会」を立ち上げ、信太山において研究会を実施した。
- (7) 小学校での授業を実施していく環境学習チームを立ち上げ、プログラムの検討などを行った。

1.3 普及・啓発事業

1.3.1 人材養成講座の開催

保全活動のための人材養成および一般市民への自然保護思想の普及のため、各種講座を開催した。

- (1) 第37期ナチュラリスト入門講座…9月～4月に実施。計17名が受講し、13名が修了した。
- (2) 第22回自然観察インストラクター養成講座…4月～10月に実施し、25名が受講し、22名が修了した。
- (3) 第19回自然かんさつ塾…4月～6月（春期）と10～2月（秋期）に実施した。春期は27名が、また秋期は15名が受講・修了した。
- (4) 第10期自然環境市民大学…4月～3月に開講、22名が受講し、22名が修了した。
- (5) 里山 step-up 研修…1月26日、池田市五月山で「ナラ枯れの傾向と対策」の講演会（講師：衣浦晴生氏、独立行政法人森林総合研究所関西支所）と実習・見学会を実施した。今回は関心の高い課題であったのと地元グループの協力もあり69名が参加した。
- (6) 環境教育プログラムの指導者養成を目的とした「プロジェクト・ワイルド エducーター養成講習会（本編・水辺編）」（第7回）を11月に開講。16名が受講、修了した。

1.3.2 自然観察会の開催

地域観察会およびテーマ観察会を、各グループにて開催した。まち中公園自然観察隊、チリモン観察会を新たに立ち上げた。

- (1) 百樹会…近畿各地で初心者向けの樹木観察会を開催。
- (2) 堺自然観察会…鉢ヶ峯等、堺市内で開催。

- (3) 吹田自然観察会…紫金山公園等、吹田市内で開催。
- (4) 服部緑地自然を楽しむ会…服部緑地公園で開催。
- (5) えぼしがた公園自然観察会…烏帽子形公園（河内長野市）等で開催。
- (6) グリーンレンジャー…若手スタッフを中心におもしろしぜん体験隊（新庄村）を開催。
- (7) 枚岡ネイチャークラブ…枚岡公園、東大阪市、生駒山系で開催。
- (8) 淀川自然観察会…十三干潟等、淀川周辺で開催。
- (9) 海の観察会…大阪湾沿岸の磯や干潟で海岸生物の観察会を開催。
- (10) みんなでかんさつ隊…鶴見緑地等、大阪市内を中心に開催。
- (11) 枚方しぜんハイキング…穂谷等、枚方市内で開催。
- (12) 大和川自然観察会…大和川河川敷で開催。
- (13) 泉北自然を楽しむ会…新檜尾公園等、泉北地域で開催。
- (14) 茨木・高槻自然に親しむ会…茨木市、高槻市各地で開催。
- (15) 堺 2 区自然観察会…「堺 2 区自然共生型護岸」での自然観察会を国交省神戸技調、大阪湾見守りネットと共催で開催。
- (16) うみがめ観察会
- (17) 「空の会」（自然環境保全リーダー）自然観察会
- (18) まち中公園自然観察隊
- (19) チリモン観察会

1.3.3 大型行事、エコツアー他

- (1) 7 月～8 月に府内一斉「みんなでセミ羽化ウォッチング in おおさか」を実施した。セミの羽化の観察会を実施する各グループの相互連携を図るとともに、研修、マニュアル等により、個人リーダーの参加を促進して、市民への浸透を図った。
- (2) 10 月～11 月に第 19 回府内一斉「どんぐりまつり」を実施した。
- (3) 自然保護の活動地や自然保護を必要とする地域を対象にエコツアーを 4 回実施した。
- (4) 今年度も「チリメンモンスター探し（ちりめんじゃこに混入している海の生きもの探し）」の体験学習指導に力を入れ、普及に努めた。

1.3.4 主催講座修了生の会の運営

主催講座の修了生の会を運営し、研修会や公開観察会等を実施した。

- (1) NOB: ナチュラリスト入門講座の修了生の会。ナチュラリスト入門講座を運営するほか、様々な取り組みを行った。
- (2) そよごの会：自然観察インストラクター養成講座の修了生の会。観察会リーダーのための研修、情報交換等を行った。
- (3) 空の会：自然環境市民大学の修了生の会。植物部会、野鳥部会、昆虫部会、工作部会を運営し、様々な行事等を行った。
- (4) プロジェクト・ワイルド研究会：プロジェクト・ワイルド講習会の修了生の会。教育プログラムのファシリテーターの人材育成のための取り組みを行った。

1.3.5 普及・啓発事業活性化のための取り組み

- (1) 主催講座および各修了生の会の相互連携、活性化のため、3 ヶ月に 1 回の「主催講座連携検討会議」を実施した。
- (2) 観察会グループ同士の相互連携・活性化のため、3 ヶ月に 1 回の「観察会連絡会」を実施した。

1.3.6 緑のカーテンづくり

城東区が2009年度から実施している壁面緑化によるヒートアイランド対策・環境改善事業「区民協働による緑のカーテンづくり」について、09年度より継続して、保全協会が加盟している（特活）大阪府民環境会議の事業受託に協力し、タネや苗の配布、緑のカーテンづくりの講習会、普及啓発などに取り組んだ。

1.3.7 講師・スタッフ派遣事業

下記の通り、行政やその関係機関、民間団体などから依頼される事業に講師・スタッフを派遣した。今年度も「チリメンモンスター探し」の対応を強化。「図書館巡回展示」も引き続き実施した。

- ・大阪市教育振興公社いきいき体験プログラム・デリバリー事業、東成区自然ふれあいフェスタ、シニア自然カレッジ、大阪いずみ市民生協里山活動等、城北川フェスティバル、生き生き地球館・エコ緑日、高槻中学校磯の生き物観察会、りんくうチリモンイベント（夏春2回）、NTT森づくり体験、その他環境NPOなどの自然観察・体験指導など。
- ・例年実施されている深北緑地ふれあいイベントは、豪雨による深北緑地の冠水のため中止となった。

1.3.8 会報誌「都市と自然」の発行

編集委員会により、毎月1日、A4判・フルカラー20ページの発行を維持した。また、会員の積極的な執筆により協会内外の出来事・活動を広く伝達できた。特に、表紙写真は「生きものたちの営み」として感動的なショットを読者に伝えることができた。

1.3.9 ホームページ（HP）の運営

- (1) 協会の広報メディアとして、HP各ページの構造・外見・内容の改善・充実を継続した。各グループに呼びかけて人材の参加を呼びかけ、HP委員会の充実をはかった。
- (2) 『都市と自然』の記事の一部をHPにも掲載するなど、直近の保全活動に関する情報発信機能を強めた。
- (3) Facebookの開設運営
管理者グループを作って参加を求め、当面5人での体制を固めた。

1.3.10 チリメンモンスターWEBインタラクティブ図鑑の開発

「子どもゆめ基金」の助成を受け、チリモンさがしをする子どもとその指導者のためのWEB図鑑を開発し、大阪、愛媛、東京で使い方の講習会を行った。またWEB図鑑を普及するためのパンフレットを制作した。

2. 組織・運営の充実

2.1.1 組織・法人機能の充実

公益社団に相応しい法人づくりのため組織運営・会計処理など執行態勢の強化に務めた。

(1) 理事会（理事）の4部体制・事務局

自然保護・調査研究／普及／事業／総務・広報の各部については引き続き、理事会・各部が協会方針の具体化に努めた。

(2) 会員・グループなどの交流、連携

生物多様性保全への関心の高まりなどから社会的要請に対応する必要性が高まっており、理事会や各活動グループ、会員、事務局、他団体などの連携を推進するため、主催講座連携検討会議や観察会連絡会を中心とした交流・協働の取り組みを継続した。

2.1.2 公益法人化

(1) 公益社団法人の設立登記

4月1日（2012年）、公益社団法人大阪自然環境保全協会の設立登記を完了した。

(2) 定款変更

- 1) 1月25日（2013年）、定款の一部、第3章「会員」第7条「経費の負担」のうち、第4項「会費には機関誌購読料を含む。なお、機関誌購読料は別に定める。」を削除した。
- 2) 3月22日の事業計画・予算総会では、2013年度より、総会の回数を年2回から1回に戻す定款変更案を提案したが、異見も出たため採決を見送った。

(3) 内規の整備

会費、特定自然保護活動推進資金、理事会、職員の各項目に関する内規の整備を行った。

2.1.3 ネットワーク組織への加盟・活動

本年度も引き続きNPO法人大阪府民環境会議（OPEN）に加盟し、OPENが受託した大阪府「共生の森づくり活動協働事業」や城東区「緑のカーテンづくり事業」の推進役となり、行政はもちろん、各事業に参画・関係している地域組織や企業、団体などとの協働・交流を進めた。

<会員数の変動>（各年3月31日現在在籍、家族会員66名除く）

会員別／年	2010年	2011年	2012年	2013年
正会員	296	299	281	266
協力会員	626	597	592	595
合計	922	896	873	861

会員は依然減少が続いており、4年間で計61名の減となっている。会員の高齢化による退会が目立っているが、自然環境の保護保全で求心力の高い活動を展開することや講座受講生の会員継続など総合的継続的対策の必要性が指摘されている。

以上